

JF マリンバンク 2016

(平成 28 年 9 月 末)



富山県信用漁業協同組合連合会

1. 事業の概要

平成 28 年度上半期においては、水産物需要の伸び悩み、低価格志向に伴う魚価の低迷等、漁業経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

こうした状況の中、“JF マリンバンク富山推進プラン”に基づき、貯金については、個人顧客貯金残高の増加を目的とする“全国統一キャンペーン”と連動した「サマーキャンペーン」を全店舗で展開し、個人顧客の定期性貯金残高の増加に取り組みました。

平成 28 年度上半期における当期利益金は 31 百万円となっております。

9 月末における自己資本比率は、上半期の当期利益金による自己資本額の増加等から 14.61%となっており、前年度末を 0.21%上回っております。

なお、9 月末の貯金及び貸出金の実績は以下のとおりです。

・貯 金

残 高	: 338 億 43 百万円	前年同月対比	10 億 11 百万円	3.08%増加
平均残高	: 335 億 22 百万円	前年同月対比	2 億 3 百万円	0.61%増加

・貸出金

残 高	: 32 億 7 百万円	前年同月対比	▲ 96 百万円	2.91%減少
平均残高	: 31 億 88 百万円	前年同月対比	▲ 1 億 64 百万円	4.90%減少

2. 主要な取組み

「JF マリンバンク富山推進プラン」に基づく上半期の主要な実践事項は、以下のとおりです。

◎具体的実践事項

(1) 貯金量増加に向けた取組

① 「サマーキャンペーン」 6/1～7/29

- ・“全国統一キャンペーン”と連動し、個人顧客の定期性貯金増加を目的に、定期貯金及び積立定期貯金を対象商品とした県下一斉キャンペーンを展開いたしました。

②店舗独自キャンペーン

- ・本店 積立定期貯金・定期積金キャンペーン 5/9～5/31

(2) 年金受給口座の獲得に向けた取組

- ・年金友の会活動支援 (氷見漁協年金友の会旅行)

(3) 貸出金増加に向けた取組

- ・「住宅ローンキャンペーン」の実施

◎その他の主要な実践事項

○ 店舗運営・事業推進の検討

- ・JF マリンバンク 富山運営委員会 (5/19)

○ マリンバンク推進委員、漁協役職員、青年部、女性部との連携強化

- ・くろべ漁協共済・金融推進委員会 (6/18)

○ 広報・PR活動

- ・黒部営業店 広報誌「清水だより」発刊 (毎月発刊)
- ・滑川営業店 広報誌「竜宮たより」発刊 (毎月発刊)
- ・新湊営業店 広報誌「しんしんだより」発刊 (毎月発刊)
- ・氷見支店 広報誌「ひみキトキトだより」発刊(毎月発刊)
- ・本店 広報誌「マリンネット」発刊
- ・ホームページ更新

○ リスク管理

- ・JF マリンバンク全職員研修会 (5/28)

○ 地域貢献活動

- ・とやま森の祭典 (5/22)
- ・飛越源流の森づくり (7/10)



3. 金融再生法開示債権(単体)

(単位:百万円)

	平成28年3月末	平成28年9月末	増 減
破産更正債権及びこれらに準ずる債権	17	17	0
危険債権	390	318	▲ 72
要管理債権	0	0	0
【不良債権額合計】	407	335	▲ 72
正常債権	2,896	2,872	▲ 24

- (注1) 「破産更正債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産、会社更生、再生手続等の理由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
- (注2) 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
- (注3) 「要管理債権」とは、基本的には、「3ヶ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権をいいます。
- (注4) 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、「破産更正債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外のものに区分される債権をいいます。

4. 単体自己資本比率

平成28年3月末	平成28年9月末
14.40 %	14.61 %

5. 主要勘定残高の状況

(単位:百万円)

	平成28年3月末	平成28年9月末
貯金	32,247	33,843
貸出金	3,146	3,207
預け金	28,287	29,799
有価証券	947	900

